

学校規模適正化計画(中間報告)への意見要約

実施期間平成 22 年 2 月 15 日～3 月 10 日

I 答申書に関する意見

① 《時期尚早である》

国の定数改善の動きも 30 名以下が議論されようとしているので、それを待ってからでも遅くはない。国の見直しの動向もある。

⑥ 《具体的に知りたい》

旧町単位での統廃合があるとしても、それでも規模は満たされない状況にある。その先にも不安があり、将来への具体的考えを知りたい。

II 学校配置についての意見

① ⑥ 《既存のままでよい》

地域の活性化や、そこに学校があることによる地域住民のつながりという意味で、近距離の中に学校があってほしい。小規模の課題は工夫で解決できる。(教員の質の向上・合同授業の実施)

④ 《見直しが必要である》

すぐにでも統合を検討すべきです。(小学校については最低でも旧町に 1 つか旧町の枠にとらわれず統合し、中学校については安芸高田市で 1 つ、もしくは 2 つ)

⑤ 《見直しが必要である》

統廃合は仕方ないと思います。(分校案には反対です。学校統合については、なじみやすい小学校入学時から考えることがよいと思う)

III 教育効果についての意見

① 《現行の努力を支援する》

現在学校ごとに特色ある教育を進めており、環境の違う中、特色を生むよう学校も努力している。小規模校が否定されると学校・生徒のモチベーションが上がらない。行政は現行を守る努力をすべきで、地域ごとに考えればよいことで基準はいらない。教育行政が一方的に言わない限り、現行の学校は存続できる。

② 《委員会案でよい》

全体のレベルアップには委員会案がベストである。今後の社会では今以上に、多くの仲間とうまくやっていく能力を身につける必要がある。

④ 《競争する環境が必要》

競争の観点が最も重要である。

⑤ 《選択肢が必要》

子供には様々な選択肢・競争する機会が必要である。

IV その他についての意見

① ③ 《目的が違う》

今回の委員会の立ち位置は、財政面からであり、そのために学校という器を少しでも減らしたいという風に思え、子供たちのための議論でないと思う。ただ経費削減のための統廃合は避けるべきです。結論に差し向けてはいないでしょうか。(無理に全部二学級学校にしなくてもいいはずです)

また小規模であることが特別不利な条件とはならない、どんな規模でも課題があり、善し悪しではない。(仮に人数を掲げるなら、併せて小規模校を存続させることができることの良さを広くアピールしてほしい)

④ 《過疎対策・定住対策が必要》

地域の活性化が教育の質を高める。(子育て環境の整備、人口対策が教育につながる。遠くなっても通わせたいと思える学校づくりが必要である。また、統合だけでは限界もあり他の施策との連携がなければ抜本的な対策にはならない)

⑥ 《廃校になった場合の地域施設への活用》

地域に点在する学校の建物を有効利用出来るよう取り計らっていただきたい。(たとえば、今後必要とされるお年寄りを対象とした施設など)

※パブリックコメントでは6人(①②③④⑤⑥)の方から意見を頂きました。